



自動運転に関するワークショップ開催報告

グローバル通信107号でご紹介した自動運転に関するワークショップを期末考査後の3月9日(水)に実施しました。中1～中3の7名という少人数での実施となりましたが、日ごろの授業ではなかなか聞くことのできない内容で興味深かったと思います。各学年から1名ずつ感想を寄せてもらいましたのでぜひ御覧下さい。

1年3組 原 陸帆

今回、自動運転技術や画像認識を体験する講習に参加した原です。

僕が今回この講習を申し込んだ理由は父親に勧められたからでした。僕は今、海城でコンピュータ部に入部していますが音響制作の方に携わっており、自動運転などのプログラミングには特に興味は持っていませんでした。

実際僕が思っていた自動運転に関するイメージはそこまで大きな夢を見ても実現することは無理な話なのでは、と少し軽蔑的な考えを持っていましたが今回の講習で自動運転や画像認識のプログラミングについて深く関心を持つようになりました。

その中でも特に印象深かったのは完全な自動運転車の実用化についてです。

現在販売されている自動運転車は0から5までのレベルがある内、レベル2の車で全自動のものではないです。しかし、2030年までにレベル5の全自動運転車の車両走行を目標としている(国土交通省の資料より)という話をこの講習で知りました。自分で行きたいところに楽をして行ける。さらには子供たち同士で何処かに遊びに行くこともできるようになるでしょう。

しかし、現在はレベル2の車でも約1000万円もかかりレベル5の車が完成してもかなり高い価格で売られ、実際に一般家庭に普及するのは70年ほどかかるのではという話が講習中の中で出てきました。僕はその話を聞いて苦笑しましたが、もし大量生産できるようになって一つの家庭につき一台は置くようになると、高齢者の方の事故や居眠り運転、飲酒運転など様々な問題を解決できる見込みがあると考えれば、少し上の夢を見るのも悪くはないと僕は思うようになりました。

今回の講習で自動運転の実現化は僕たちの生活を支え、日々の生活を楽しく過ごせるのではないかと思うようになりました。講師の方、このような講習を受けさせて頂き本当にありがとうございました。

2年2組 伊豆倉 一輝

僕は「Instant Tech自動運転に関わるワークショップ」を受講しました。自動運転の現状についてや画像認識のプログラミングについて学びました。僕が今回印象に残ったものは画像認識についてです。まず、赤と青のコーンが写っている写真をプログラミング技術によって、対象のコーンを認識させるということを実践しました。また、その技術を実際に使用して小型の車が画像認識を駆使して走行する様子を見学しました。

今回僕はこの講座を通して、画像認識技術の基本を初めて知ることができました。しかし、自

動運転車の画像認識では今回の技術を発展させた、動いていたり、似たような色をしたものであったり様々な画像の中から瞬時に判断する能力が求められると思います。それらの発展した技術はどのようなものなのかについて興味を持ちました。

また、今回の講座を受けていて自動運転が近い未来、日常的なものになっているのではないかと改めて感じさせられました。まだ、自動運転には責任問題やセキュリティーの問題などの課題がありますが、様々な利用者の期待に応えていくのだらうと思いました。

今回の講座は、自動運転の技術への興味を広げることができる有意義な時間になりました。このような機会をつくっていただいた方々、講師の方ありがとうございます。

3年4組 渡辺 航太郎

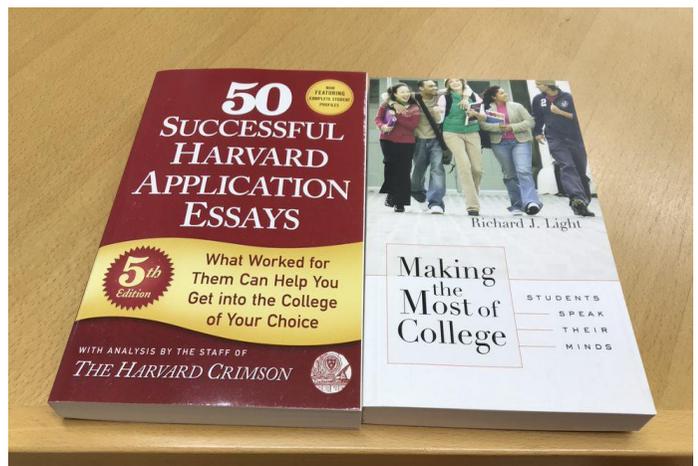
Python というコードを使った画像認識のプログラミング、自動運転の両方について興味を持っていたことから参加したワークショップでした。いざ参加してみると、自動運転と画像認識の関係性が面白かったうえ、画像認識の仕組みや自動運転の現状をととてもわかりやすく学ぶことができました。また、ただプレゼンテーションを見たり話を聞いたりするだけではなく、自分たちが話し合っって考えをまとめていく時間、実際に自動運転の仕組みを理解したうえででの走行の観察などインターアクティブなこともできたので、プログラムの雰囲気も普段の学校の授業とは異なっていたのも印象深いです。参加人数は少なかったものの、講師の方も親しみやすく教えてくれたので楽しい時間を過ごすことができました。



受講風景 右は車が青いコーンにだけ反応するように色を調整する仕組みを学ぶ様子

2021年度 Harvard Prize Book が高2 勝山翔紀君に授与される

Harvard Prize Book とはアメリカハーバード大学同窓会によって提供されているプログラムで、世界中で約 1,900 校が参加しています。この賞は高校 2 年生でハーバード大学を含むアメリカの大学へ進学することを検討している学業、課外活動で実績を上げている生徒を対象に授与されるものです。今年度は高校 2 年 5 組の勝山翔紀君に授与されることになりました。本来は終業式で授与されるのですが、放送による実施となるため本号でご紹介します。勝山君には賞状と英文図書 2 点が授与されました。本校公式HPで既にご存知の方も多いと思いますが、勝山君は物理部に所属しており地学部にも所属する同学年の青山君と共に「機械学習を用いた地下水位予測」という研究で日本学生科学賞入選 2 等を受賞しています。来年以降も優秀な生徒諸君が出てくることを期待しています。



上：授与された図書

左：高校 2 年 5 組 勝山 翔紀 君

海外大学進学に関する情報

EducationUSA はアメリカ国務省・教育文化局の支援を受けたネットワークで中立的な立場からアメリカ留学に関する情報を無料で提供しています。春休み中にオンラインで実施されるイベントの情報をお届けします。費用は無料ですが、事前申し込みが必要となります。申し込みは各自でお願いします。

「寮生活の意義~Why live on campus?」

開催期間：2022年3月30日（水）12:00-13:00（ウェビナー形式）

使用言語：英語（通訳なし）

日本とアメリカの大学生活の違いのひとつに寮生活があげられます。多くのアメリカの4年制大学は、寮を完備し、寮での共同生活も学びの一部となっています。キャンパスに住むことから得られることは一体どのようなことがあるのか、The Colleges That Change Livesにも選ばれている2校のリベラルアーツカレッジ（Liberal Arts Colleges）担当者からお話を伺います。

申込はこちらから

<https://business.form-mailer.jp/fms/c2d4c5bc165637>

春のアメリカ大学留学フェア

開催期間：2022年4月2日（土）9:30～15:10

4月は、コミュニティカレッジ月間です。コミュニティカレッジは、公立2年制大学で、アメリカの高等教育の中核といっても過言ではありません。4月2日（土）、コミュニティカレッジを含む、全米19州から40大学以上が参加し、オンラインで大学留学フェアを行います。

EducationUSA アドバイザーによる留学全般に関するアドバイスを受けたり、各種英語テスト（TOEFL, IELTS, 英検, PTE Academic）についての情報を得ることもできます。また、日本語での各種セミナーも開催予定です。

9:30-10:30 「1年以内のアメリカ大学留学（Non-Degree）」

11:00-12:00 「語学留学/英語研修目的でのアメリカ留学」

12:00-14:00 「アメリカ大学留学フェア」

★参加大学一覧：

<https://www.fulbright.jp/study/event/2022-04-02-edusafair.pdf>

★ブースでの質問例：<https://www.nacacnet.org/globalassets/images/eblast/collegefairchecklist.pdf>

14:00-15:10 「各種英語テスト（TOEFL, IELTS, 英検, PTE Academic）について」※

※ このセミナーは、ハイブリッド（対面・オンラインの両方）での実施に変更する可能性があります。対面実施の場合は、都内（溜池山王）を予定しております。

◆ 事前登録方法：事前登録は2ステップ。

1. <https://eventbase.cloud/edusaspring22>にて、メルアドとパスワードなどを設定
2. メールアドレスから認証URLをクリック

◆ イベント当日：

<https://eventbase.cloud/edusaspring22>に、登録したメルアドとパスワードを入力してご参加ください。

※セミナーのみの視聴でも、(フェアに参加しない場合でも)フェアへの登録が必要です。また、セミナーの録画は、フェアサイト上で5/2頃まで、アーカイブ配信する予定です。

*本号が2021年度最後となります。今年度もお愛読ありがとうございました。原稿を書きながら一方通行の発信になっていやしないかと懸念を覚えることもありますが、プログラミング講座など参加人数は少なかったもののこちらがお届けした情報に積極的に反応してくれた生徒諸君がいたことを嬉しく感じています。新年度も皆さんの知的好奇心を刺激するような情報を随時発信していきたいと思っています。